2023 年度第 12 回価格審査会の開催について

2023 年度第 12 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2024 年 3 月 14 日(月) 10:00～12:00
場　　所	本部 6 F 大会議室
委　　員	松田　寛志　　日本工営株式会社　流域水管理事業本部 本部長 鈴木　由香　　株式会社日本設計　コスト設計部長 桒原　圭一　　東日本建設業保証株式会社　業務部 副部長 辻　　保人　　一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリンズ・テクリスセンター長 早川　和利　　東日本旅客鉄道株式会社　東京建設プロジェクトマネジメントオフィス プロジェクト支援ユニット　プロジェクト予算 マネージャー(総括)
当　　会	共通資材調査部　　部長：大澤 勝、次長：小林 法雅 建築調査部　　部長：高橋　俊一、次長：島田 理久 監査審査室　　室長：黒澤　昭浩 調査統括部(事務局)　部長：柴尾 治、課長：本間 哲

□2023 年度第 11 回価格審査会議事録(案) 確認

□2023 年度第 12 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明
1.「建設物価」4 月号、「Web 建設物価」4 月号、「土木コスト」春号、「建築コスト」春号の価格動向 ・価格が上伸した資材（工事費） 【Web 建設物価】 異形棒鋼（福井市ほか8都市）、レディーミクストコンクリート（十和田市ほか20都市）、再生砕石類（札幌市ほか6都市）、アスファルト混合物（富山市ほか9都市）、ストレートアスファルト（全国）、６００Ｖビニル絶縁電線（ＩＶ）（北海道地区ほか9都市）、鉄スクラップ（札幌市ほか41都市）ほか 【土木コスト情報】 ＜市場単価＞鉄筋工（新潟県ほか18地区）、ガス圧接工（茨城県ほか28地区）、インターロッキングブロック工（茨城県ほか8地区）、インターロッキングブロック工（茨城県ほか8地区）、防護柵設置工（落石防護柵）（全国）、法面工（全国）、吹付枠工（全国）ほか。 ＜土木工事標準単価＞橋梁塗装工（全国）、構造物とりこわし工（全国）、コンクリートブロック積工（全国）、排水構造物工（全国）、鋼製排水溝設置工（全国）、表面被覆工（コンクリート保護塗装）（全国）、表面含浸工（全国）ほか 【建築コスト情報】 ＜市場単価＞鉄筋工事（札幌市ほか28都市）、圧接工事（東京都２３区ほか5都市）、型枠工事（青森市ほか32都市）ほか ＜標準施工単価＞鉄筋工事（札幌市ほか29都市）、型枠工事（仙台市ほか7都市）、タイル工事（全国）、木工事（全国）、金属工事（タラップ，雑工事）（全国）、構内舗装工事（インターロッキングブロック）（全国）ほか

・価格が下落した資材（工事費）

【Web 建設物価】

ストレートアスファルト（那覇市）、構造用合板（盛岡市ほか13都市）、燃料油（札幌市ほか18都市）、非鉄スクラップ（札幌市ほか2都市）ほか

【土木コスト情報】

なし

【建築コスト情報】

土工事（親ぐい横矢板工法）（福岡市）

２．比較資料

・企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問１	鉄スクラップの値上がりに対して補足コメントには「需給ひっ迫を背景に上伸」とあり、市況コメントには「輸出価格がけん引し、2,000 円上伸」と表現方法が異なる。補足コメントに「需給ひっ迫を背景に上伸」とした理由はなにか。	補足コメントには価格変動の主因を記載している。市況コメントに記載しているように、東アジア向け輸出で高値であったことは価格変動要因の一つではあるものの、それによる国内需給ひっ迫のほうがよりインパクトが強いと判断し、主因を「需給のひっ迫」とし補足コメントに記載した。
質問２	解体工事等で発生する鉄スクラップとコンクリート廃材について、鉄スクラップは、需給がひっ迫しているが、コンクリート廃材は需給が緩和している。同じ廃材でもこのように違うのはなぜか。	鉄スクラップは再開発工事等による鋼材向け需要がある程度確保されているなか、解体工事の人手不足等により供給が乏しく需給がひっ迫している。一方でコンクリート廃材は、メインの出荷先となる道路向けの再生砕石の需要が少ないなか、それを上回る廃材の供給が市中にあることで需給が緩和している。
質問３	土木コスト情報「鉄筋工」で東日本大震災の復興のピークは過ぎているにも関わらず、仙台地区が東京地区を上回る価格水準で推移している。東京地区は、鉄筋工事の需給がひっ迫することによる価格上昇があってもおかしくないが、仙台地区より価格水準が低い理由はなにか。	仙台地区は、東日本大震災の復興需要がピークアウトしたものの、職人不足を背景とする労務単価の上昇が大きく、東京地区よりも１割以上高く推移。これを受け市場単価「鉄筋工」も高止まりしている。一方、東京地区の 2023 年度労働稼働率は高水準で推移しており、労務需給のひっ迫から、仙台地区よりも価格水準は低いものの高い上昇率で推移している。

質問4	再生砕石が都市部である札幌地区で上伸し、それ以外に地方部でも6都市上伸している、それぞれの値上がり理由は何か。	再生砕石は、電力料金等の値上がりによる製造コストや燃料等の値上がりによる輸送コストが上昇していることから全国的に値上げを行っている。都市部である札幌地区が上伸した理由は、新材となる道路用砕石が値上がりしていたことにより、再生砕石も値上がりしやすい状況にあったためである。また、地方部が上伸した理由は、都市部と違い廃材の発生量が少ないため、メーカーは材料となる廃材を確保するために廃材受け入れ料金を値下げする一方で、製品価格を値上げしたためである。
質問5	市況コメントで、非鉄スクラップ（銅・アルミ）は「国際相場の上昇を背景に上伸」と全国的に価格上伸した一方で、非鉄スクラップ（鉛・亜鉛）は「国際相場の下落を受け、下落」と3都市のみ価格下落となっている。同じ国際相場に起因する値動きにも係わらず、価格変動地区に違いがあるのはなぜか。	非鉄スクラップの中で銅やアルミは主要な品目である一方、鉛や亜鉛は主たる取引品目ではなく取引数量は少ない。特に地方部では極めて少なくなっている。市場規模が小さいため国際相場と連動して価格を動かさない業者も多く、結果的に価格変動都市が限定された。
質問6	入稿情報表で値上がり率が高いものとして「ピット」があるが、値上がり率が高い理由は何か。	「ピット」の素材はステンレスであるが、ステンレスの素材価格は2022年から2023年にかけて上伸している。メーカー各社はこの間、上伸分を段階的に製品価格に転嫁してきており、それがここにきて一気に浸透し大幅な価格上伸となった。
質問7	建築コスト情報「鉄筋工事」「型枠工事」が値上がりしているが、「コンクリート工事」は横ばいとなっている。値上がりした2工種と横ばいの工種とで市況コメントがそれぞれ「強基調」と「強含み」と異なっているが、同じ鉄筋コンクリートに関連する工種で市況動向が異なる表現となっているのはなぜか。	「鉄筋工事」「型枠工事」は、今回の上伸に続き更に上伸する見込みであり「強基調」と表現している。一方、「コンクリート工事」は今回横ばいであるが、次回は値上がりする見込みであるため「強含み」と表現している。「強基調」と「強含み」の違いは、価格上伸が連続する見込みであるかどうかで表現を変えている。
質問8	地場材価格変動の地図情報における骨材の値上がり地区が、全国に分散しているがその理由はなにか。	骨材は輸送や製造コストの値上がりから全国的に上伸傾向が続いている。値上がり地区が分散しているのは、地区ごとに交渉の進展状況が異なる結果である。長い期間を通してみれば、全国的に多くの地区が値上がりしている。

質問 9	レディーミクストコンクリートにおける十和田地区の市況コメントで、製造・輸送コストの増加により「積み残し分の一部が浸透」とある。各種コストの値上がり傾向は続き、値上げの積み残しもまだあるなか、先行きの見通しを「横ばい」としている理由は何か。	市況コメントでは「先行き」を１～３カ月先としている。値上げ交渉は継続するものの次の値上がりまで数カ月の時間を要しそうな場合は、先行きの見通しを「横ばい」としている。
質問 10	異形棒鋼の 10 都市価格推移グラフを見ると東日本と比較して西日本が安価である傾向が見られる。何か理由はあるのか。	異形棒鋼は主に電炉メーカーが生産しているが、東日本と西日本で電力コストに差があることが、製品価格差の要因の一つである。
質問 11	６００Ｖビニル絶縁電線において高圧ケーブルは新規受注停止が継続しているとのことだが、重要な事業に遅れが生じているなどの大きな混乱は発生していないのか。	需要に生産が追い付かない状況は継続しているが、需要家は納期が長くなるアナウンスを受けて落ち着いて対応しているとみられ、製品手配に苦慮している状況は伝わってくるものの、大きな混乱の発生は見られていない。
審議結果	「建設物価」4 月号、「Web 建設物価」4 月号 「土木コスト」春号、「建築コスト」春号の価格動向に問題はなかった。	

以　上